

センリョウの効率的簡易挿し木繁殖法

暖地園芸センター

[研究のねらい]

センリョウの繁殖は実生繁殖が一般的ですが、株間で収量や品質がばらつき、生産が不安定になることがあります。一方、栄養繁殖では特性は安定しますが、従来の挿し木繁殖法は、ミスト室が必要であったり、増殖率が低い欠点があり、生産現場では利用されていません。そこで、生産現場での利用が可能な効率的挿し木繁殖法を検討しました。

[研究の成果]

- ①挿し床は、育苗箱(横30cm×縦50cm×高さ8cm)の底にビニールを敷き、鹿沼土を入れ、水がたまる程度にかん水します(以下、プール挿し、図1)。
- ②挿し穂として、頂芽または茎を用います。頂芽挿しの挿し穂は、1年生枝を先端から約5cmの部位で節を残して切断し、葉をそれぞれ半分に切除します。茎挿しの挿し穂は、2節を1本とし、上位の節には半分に切除した葉を2枚残し、下位の節を基部とします(図2)。挿し穂の基部には葉を付けませんが、新しい枝を発生させるため、腋芽を2つ残しておき、0.5%IBAを処理します。
- ③挿し木後は、2～3日間隔で挿し床に水がたまる程度にかん水し、80%程度の遮光条件下で管理します。
- ④プール挿しの適期は、発根率が最も高く、枝根の発生本数が最も多い6月でした(図3)。
- ⑤挿し穂の採取本数は、2年生枝を用いると8.1本とれ、1年生枝の1.1本に比べ7.4倍に増加しました(図4)。

[成果の活用面・留意点]

発根するまでは強風により挿し穂が飛ばされてしまうことがあるので、挿し床の設置場所に注意が必要です。



図1 プール挿し(水がたまった状態)



図2 挿し穂の切り方(左:茎挿し、右:頂芽挿し)

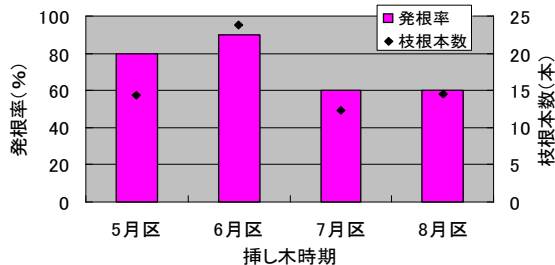


図3 プール挿しの挿し木時期と発根率および枝根本数

注)調査日:

5月区;2004年7月18日,6月区;2004年8月16日

7月区;2004年9月21日,8月区;2004年10月19日

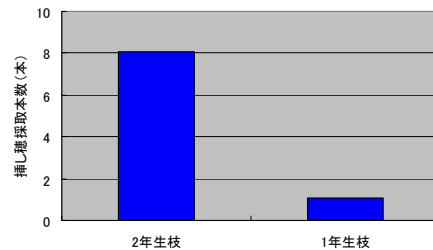


図4 挿し穂採取枝と挿し穂採取本数

注)調査日:2007年8月13日

(問い合わせ先TEL:0738-23-4005)